

# 令和2年度 叡明高等学校 学校自己評価シート

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校目標	建学の精神である「みんなから愛され、信頼される人」「社会に役立つ人」「勤労を尊び前進する人」を育てることを目標とする。「叡智・高志・協調」を教育の理念とし、①自主自立の精神を養い、自ら学び自ら考える力を育む。②確かな学力と規範意識に基づく豊かな社会性を養い、たくましく生き抜く力を育む。③思いやりの心や個性を伸ばし、一人ひとりの夢や希望を育む。以上の3点を具体的な教育方針とし教育活動を行う。
本年度の目標	叡明高等学校としての5年間を検証し、継続または発展させるべきことと、改善すべき点を明確にし、それらを踏まえて学習活動の指導、規範意識や道徳心の涵養、基本的生活習慣の定着を図る。

評価項目	現 状	具体的な方策	評価指標	経過・達成状況	達成度	学校関係者評価	
						実施日 令和3年6月11日	
						学校関係者からの意見・要望・評価等	
1 教務 業務の 効率化 教育環境の 充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部署や学年との連携が十分に取れていない面がある。</li> <li>明文化されていない業務がある。また、指示書が多いため参照すべきものが分かりにくくなっている。</li> <li>新指導要領に合わせたカリキュラムの完成と各教科の準備を充実させる必要がある。</li> <li>個々の授業への分掌や教科の支援が十分にはできていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部長間で話し合う機会を設け、意思の疎通を図り、協力関係を強化していく。</li> <li>教員業務の明文化を推し進めていく。</li> <li>他部署、特に教科指導部と連携し、個々の授業の充実を図る。</li> <li>教科会議の充実を図る。特に、双方向型授業、生徒が主体的に学ぶための授業づくりを推進する体制を整える。</li> <li>現在行われている業務を精査し、効果と効率を考え、業務全般を整理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教務主導による学校業務の確立。</li> <li>部署を越えての学校業務における協力関係の確立。</li> <li>教務上の教員業務マニュアルの改善と積極的活用。</li> <li>教科全体での授業への支援体制の充実。</li> <li>学習意欲の向上。</li> <li>学習習慣の定着。</li> <li>学習に集中できる環境の確立。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成績処理などの面で新たな取り組みを実施することができた。しかし、そのために新たな課題も見つかった。</li> <li>他分掌や学年とは、十分ではないが、昨年度以上に連携体制がとれている。</li> <li>業務必携の内容を充実させることができた。</li> <li>新カリキュラムについては、各コースの特色及び目標に即したものが完成させられた。</li> <li>教科会議を教務主導で行っている。また、個々の授業への教科からの支援という面では、次年度からの取り組みの準備ができた。</li> <li>積極的に質問をして、苦手な分野を克服しているとする生徒の姿も見受けられる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな成績処理方法においての問題点を改善する必要がある。そのため、今以上に、教務部と教科の連携が必要となる。</li> <li>各教科の授業とそれを評価する試験のあり方を検討する必要がある。</li> <li>業務必携の改訂により、さらなる教務的業務の明文化を目指し、業務の正確化と効率化を図る。</li> <li>教科指導部への協力関係強化と教科会議の充実化で、授業力向上のための体制を整える。</li> <li>新指導要領を実践するための体制作りのため、情報の収集と共有、十分な検討が必要である。</li> </ul>	<p>Q 追試験に関する意見</p> <p>A 生徒を進級させるため、合格するまで何回も追試験が実施されていたが、いつか合格するだろうと考え緊張感・集中力が低下している。公平性にも欠けるため廃止していく。</p> <p>Q 土曜講習に関する意見</p> <p>登校による対面式は勉強に集中できる環境があり、学習進度が確認しやすいメリットがあるが、オンライン式は本人がしっかりと取り組んでいるのかわかりにくい。選択できる併用式を検討してほしい。</p> <p>A オンライン式、対面式それぞれ良い面と悪い面があると思われる。コロナの状況をみながら生徒にとって一番いい方法を考えていく。併用も検討していく。</p>
2 教科指導 教科指導の 充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学進学を希望する者が大半である一方、一般入試の受験者数は少ない。</li> <li>医療系への進学希望者が増えている。</li> <li>難関大学合格者が少ない。</li> <li>土曜講習が進学実績の向上に貢献しているとはいいがたい。</li> <li>各種検定試験の受験者や、外部模擬試験の受験者が増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導部との連携による大学を意識した進路ガイダンスの開催</li> <li>公開授業週間や教科担当同士の研修や連携を推進して、教科指導方法を常に検証し、わかりやすい授業を通して生徒たちに学ぶことの大切さや喜びを体感させるべく、授業力を向上する。(教員相互の授業見学)</li> <li>授業と大学進学対策講座講習の体系化を図り、難関大学への合格者を増やす。</li> <li>オンライン講座を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学合格実績</li> <li>模試の結果の推移</li> <li>講習への参加率</li> <li>難関大学の入試に対応した授業や講習の実施</li> <li>検定合格者数と合格率</li> <li>教員向けガイダンスへの参加数</li> <li>オンライン講座の視聴数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学合格実績は厳しい状況ではあるが、一般入試で難関大学へ一定数合格させることができた。特にGMARCHの合格数で昨年を上回ることができた。</li> <li>難関大学への入試に対応できる態勢をより整えるべく、土曜講習や長期休暇中の講習に加え、放課後講習を実施した。</li> <li>推薦入試の割合を減らし、一般入試の割合を増やすことはできなかった。</li> <li>各講習でシラパスを作成し、生徒に選択させたことは取り組みとしてよかった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>安易に推薦入試に流れるのではなく、目的意識を持たせようとして、入試方法の選択をさせる指導を行わなければならない。</li> <li>難関大学に挑戦する生徒たちへの学習指導の在り方をさらに検討を加え、より充実したものにしていきたい。</li> <li>土曜講習の実施方法・回数を含め、意義や費用対効果の高いものに変えていきたい。</li> <li>より一層オンライン講座を活用し、各講習の回数を増やすだけでなく、より効果の高いものに変えていきたい。</li> </ul>	<p>Q 進路実績に関して</p> <p>丁寧な進路指導の結果、進路実績をあげている。今後も期待し注目している。</p> <p>A 進路に関して、学校全体で力を注いでいる。目標数値をきかせ、学校全体で達成できるようにしている。全体の数値はもちろんであるが、各個人に対応できるように取り組んでいる。個人との面談も多く取り入れコミュニケーションを図り、最大限の情報の提供やアドバイスなどを行う取り組みをしている。</p>
3 進路指導 進路指導の 充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導室を活用する生徒の数が少ない。</li> <li>進路のしおりの活用が不十分である。</li> <li>指定校推薦受験者の学力向上に対する意識が低い。</li> <li>入試改革やコロナ禍において、生徒が十分に入試情報を得ることができている不安がある。</li> <li>難関大学合格者数が少ない。</li> <li>現役大学進学者71.9% (R1年度卒)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導室の設備の充実を図る。</li> <li>進路のしおりは、現場(担任や生徒)の意見を取り入れたものに改訂する。</li> <li>指定校選考試験を見直す。</li> <li>クラスルームを通して進路情報を随時発信する。</li> <li>出願指導検討会を見直すとともに、教科指導部との連携を強化する。</li> <li>進路指導部の方針を職員会議や学年会議で全教員に浸透させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導室の利用人数の増加。</li> <li>進路のしおりの活用状況。</li> <li>指定校選考試験の全面改訂。</li> <li>クラスルームによる情報発信状況。</li> <li>難関大学の合格者数の増加。</li> <li>現役大学進学率の向上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導室については、赤本を置いて貸し出し可能とした。またPCで指定校情報や受験レポートの閲覧などができるようにした。その結果、利用人数がかなり増加した。</li> <li>進路のしおりについては、特に3年生版は大きく改訂し、相談時や面接練習時には進路のしおりを持ち歩く姿を多く見かけるようになった。</li> <li>指定校選考試験については、業者に依頼して本校のレベルに合った試験へと改訂した。</li> <li>出願指導は教科指導部と連携して受験計画を立てたが、受験にまでつながらなかった生徒が多かった。さらなる見直しが必要。</li> <li>難関大学の合格者数は、41名から48名へと増加したが、目標の70名には届かなかった。</li> <li>大学進学率は71.9%から73.4%に向上した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>入試改革による大きな問題や混乱は生じなかったが、安全志向に歯止めをかけることはできず、難関大学に挑戦する生徒が減少した。3年生になってからの指導ではなく、早期から難関大学受験を意識させる取り組みを計画していく必要がある。</li> <li>難関大学の合格実績を伸ばすためには、特選コースの役割が重要である。特選コースの担任だけでなく生徒たちとも面談を行ない、状況・情報を把握するとともに信頼関係を築いていく。</li> <li>総合型選抜や学校推薦型選抜で受験する生徒に対しての教員の指導力に差が出ないよう、推薦書や志望理由書の書き方、小論文・面接指導など職員研修を積極的に実施する。</li> </ul>	<p>Q 近隣からの学校の評判について</p> <p>登下校のマナーはとて素晴らしい。挨拶もしてくれる生徒も多い。ただ電車に乗ってからのマナーに関しては問題があるかもしれない。</p> <p>A 職員自分が見本を見せられるように取り組んでいる。大きな声で元気よく職員側から声をかけるように継続して取り組んでる。電車での行動に関しては指導が行き届かない面もあるが、自主・自立の精神を養い、いつでも正しい行動がとれるように学校生活の中で指導していく。</p>
4 生活指導 生徒指導の 充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>【登下校】</li> <li>挨拶する生徒は増えているが、自発的な挨拶が課題であり、また声が小さい。</li> <li>周囲の人への優しさと思いやりの部分で、集団心理が優先してしまい、登下校におけるマナーが徹底されていない生徒がみられる。特に、横並びによって道をふさいでしまうことが気になる。</li> <li>服装、特に、女子生徒のスカートを膝上にしてある生徒が一部いるのが気になる。</li> <li>【指導措置】</li> <li>外部での迷惑行為</li> <li>生徒間のトラブル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【登下校】</li> <li>挨拶については、教職員が率先して取り組み、生徒とのコミュニケーションを図る。</li> <li>登下校マナーについては、立哨指導の強化を継続していく。また、校門での生徒指導部による登下校指導を行う。</li> <li>【指導措置及び規律】</li> <li>生徒心得など共通理解事項を共有し、全教員による声かけ指導に取り組む。</li> <li>SNSの諸問題については、具体的な例、本校での対処法や指導措置を伝え、理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒と教員間の挨拶の実践。</li> <li>登下校のマナーにかかわる苦情の減少と交通事故件数の減少。</li> <li>高校生に相応しい髪型や振舞い(制服の着こなし)、基本的生活習慣(欠席・遅刻数などの統計)。</li> <li>問題行動(SNS含む)の有無。</li> <li>地域からの評判(ボランティア活動や部活動での成績など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【登下校】</li> <li>全体的には、積極的に挨拶を心がけてくれる生徒が増えたが、声が小さい・出せないなどの生徒もいる現状である。</li> <li>登下校での苦情や自転車事故の件数も減少している。来年度も継続して指導を行っていく。</li> <li>【指導措置】</li> <li>全体的に学校生活では落ち着いているが、問題行動は年間3件で、外部での迷惑行為での停学者が出た。</li> <li>【全体】</li> <li>今年度の卒業生580名中、皆勤119名・精勤243名で合わせると全体の6割以上になり、基本的生活習慣が身につけている。他学年についても、皆勤者数も伸びている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事や学校内のルール、生徒会及び委員会活動の活性化を図る等、生徒たちに積極的に関わらせることで、生徒自身の力をつけさせる(自己指導)。</li> <li>生徒指導は共通理解に基づき、教職員全体で行う(生徒・保護者からの信頼と公平性確保のため)</li> <li>生徒指導の基盤はホームルームにあり、生徒指導の基本は担任であることを意識し積極的に行う。</li> <li>ボランティア活動などを通じて、優しさと思いやりの心を育成し、人権尊重の精神を養うことを目指す。</li> <li>保護者との信頼及び協力関係の形成を図る。</li> </ul>	<p>Q 保健室の利用に関して</p> <p>A 全校生徒数が非常に多いため、適切に保健室が利用できるように指導している。保健室を利用する、利用しないの判断は難しい所もあるので、担任を中心に適切に対応できるようにしていく。</p> <p>Q 盗難に関して</p> <p>A 体育の時間などで教室を空けるときなど特に気をつけるように指導していく。</p> <p>Q 自販機に関して</p> <p>A 生徒のニーズに応じられるように、設置台数や価格に関して業者と相談できるようにしていきたい。</p>
5 広報 広報活動の 充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>定員520名を下回る生徒の入学。</li> <li>492名【単願275名、併願217名(受験者2,534名)】</li> <li>男女比52:48。</li> <li>普通科定員充足率94.6%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的広報活動の展開。上級学校訪問やPTA高校見学の受け入れや進路講演会などへの参加。(上級学校訪問の受け入れ、PTA見学会の受け入れ、進路講演会への参加、出前授業の実施)。</li> <li>中学校訪問や塾訪問の実施。(中学校訪問、塾訪問)。</li> <li>学習塾主催相談会への参加。</li> <li>ホームページによる生徒活動状況や学習への取り組みの発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学則定員の確保。</li> <li>学校説明会、個別相談会、オープンスクール等の参加者の増加。</li> <li>志願者数の増加。</li> <li>単願希望者の増加</li> <li>ホームページの迅速な更新。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>充足率122.9%(定員520名に対し、入学者数639名)。</li> <li>オープンスクール参加者2,378名、学校説明会参加者5,976名、個別相談会参加者2,561件</li> <li>志願者数2,534名(昨年比107%)</li> <li>単願希望者415名(昨年比142%)</li> <li>ホームページ更新状況はやや改善した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的広報活動の展開は引き続き行う(塾主催の相談会や中学校の進路説明会などへの参加)が、中に目を向ける(在校生に対し)ことで、口コミ等の広報活動にも比重を置く。</li> <li>ホームページの改善を行うことで入試情報はもちろん、生徒活動状況や学習への取り組み状況の迅速な情報発信を行う。</li> </ul>	<p>Q オープンスクールに関して</p> <p>以前の小松原高校の時には少しよくない印象があったが、今はいい印象に変わってきている。実際の学校訪問の際には、校舎が清潔で制服なども好印象であったため進路を決断した。学校関係者評価は年1回ではなく2回あってもいいのではないかと。</p> <p>A 本日の意見を参考に今後より良い学校にしていきたい。</p>